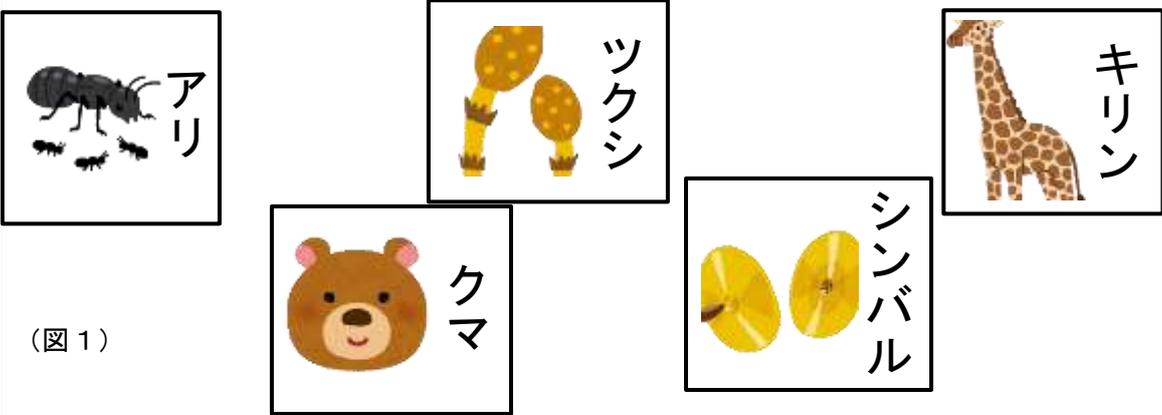
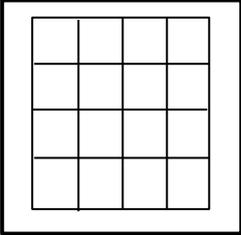


大項目	読むこと
小項目	カタカナの読み（書き）
タイトル （教材名）	カタカナビンゴ
目的 身につけてほしい力	・ゲーム感覚で楽しみながら、カタカナの文字と音のマッチングを行う。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	 <p>(図1)</p>  <p>(図2)</p> <p>・(図1)のような、イラストとそのイラストをあらわすカタカナが記されたカードを20枚以上作成する(カタカナの読み「カタカナかるた(イラスト編)と同様のカードでも可)。 ・(図2)のような、4マス×4マスの、カタカナを記入する用紙を作成する。</p>
教材の使用方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒は、1枚ずつ(図1)のカードを抜き取り、そのカードに書かれているカタカナを声に出して読む(カタカナを読む)。 ② カードを読んだ児童生徒、聞いた児童生徒の全員が、そのカタカナの単語を(図2)の記入用紙の好きなマスにそれぞれに記入する(カタカナを聞いて書く)。聞いて書くことがむずかしい児童生徒は、カードを見ながらカタカナを書く。 ③ ①、②の作業を、16マス埋まるまで順番に続ける。 ④ 指導者は、カードを順番に引いて読み上げる。児童生徒は、読み上げられた単語を聞いて、自分の記入用紙から探して赤丸をつける(カタカナを聞いて探す(読み上げられた単語と、自分の書いたカタカナのマッチング))。聞いて探すことがむずかしい児童生徒は、カードを見ながらカタカナを探す。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・カタカナの読みがある程度定着してきていることを確認してから行う。 ・発展した形として、上記の指導者の役割を、児童生徒が行うパターンが考えられる。 ・イラストを手がかりにカタカナを読む、聞いて書く、聞いて探すという作業を組み合わせた活動になっている。 ・カタカナの読みを定着させるために、指導者は活動が終了した際に、「今日覚えたカタカナ」として、読み上げられたカードのカタカナの読みの確認、振り返りを行う。 ・カタカナは表音文字であり、字そのものに意味はないため、カタカナで表現されるイラストとカタカナをセットで覚えることで、カタカナの意味づけを行っている(文字のみではイメージ化がむずかしい児童生徒への支援、記憶の定着への支援)。 ・参考文献「LD ADHD&ASD 2018年1月号 P56.57」特別支援教育士資格認定協会編 明治図書